

氏名	安 井 正 純		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 1058 号		
学位授与の日付	昭和54年12月31日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)		
学位論文題目	人の乳頭腫におけるウイルスの検索		
論文審査委員	教授 新居 志郎	教授 小川 勝士	教授 小田 琢三

### 学位論文内容の要旨

人の乳頭腫のウイルス原因性を検討するために、人体諸部位に発生した乳頭腫乃至類似腫瘍におけるウイルスの存否を主として電顕的に検討した。

皮膚のものでは、尋常疣贅3例、扁平疣贅2例、疣贅様表皮発育異常症2例のすべてにウイルス粒子を認めた。粘膜のものでは、尖圭コンジローム2例、口腔乳頭腫8例、鼻腔乳頭腫2例、喉頭乳頭腫4例、膀胱乳頭腫3例、家族性大腸ポリポージス1例のうち、尖圭コンジロームの1例にのみウイルス粒子を認めた。ウイルス粒子を認めた乳頭腫のすべてにおいて、ウイルスはパポーバ群、殊にそのうちの乳頭腫ウイルスに属するものと思われた。

疣贅様表皮発育異常症の1例、口腔乳頭腫の1例、喉頭乳頭腫の1例、家族性大腸ポリポージスの1例に悪性を認めた。尚疣贅様表皮発育異常症では初期悪性巣にもウイルス粒子を認めた。

以上より次のことが考えられた：(1)皮膚のいわゆる疣贅は従来の報告の如くほとんどすべてウイルス性のものであるが、然し粘膜の乳頭腫乃至類似腫瘍にはウイルス性のものはむしろ少ない、(2)人の乳頭腫乃至上皮性乳頭状腫瘍は、それがウイルス性であると否とにかかわらず、時に悪性化する場合があります、悪性化には体質的要因が関与する可能性がある。

### 論文審査の結果の要旨

本研究はヒトに発生する乳頭腫の原因を明らかにする目的で、皮膚および粘膜部から採取した多数の乳頭腫材料についてウイルス学的検索を行い、ウイルスの関与の有無を詳細に検討すると共に、乳頭腫乃至類似腫瘍の悪性の機構について考察したものである。

この研究領域における価値ある業績であり、医学博士の学位を得る資格があると認める。